

権現山いろいろ Q&A

権現山って、どんな山？ 権現山のプロフィールをさまざまな角度から見てみましょう。

どんな山？

広島市安佐南区緑井にあり、標高は 397m です。登山口までは広島交通バス「毘沙門天」停留所から徒歩 5 分、アストラムライン「毘沙門台駅」から毘沙門天参道入口までは徒歩 5 分です。阿武山の南に位置し、市民の憩いの森として親しまれ、縦走も人気があります。



「憩の森」表示板

* 1 縦走：山から他の山へと続けて歩くこと

保安林って何？

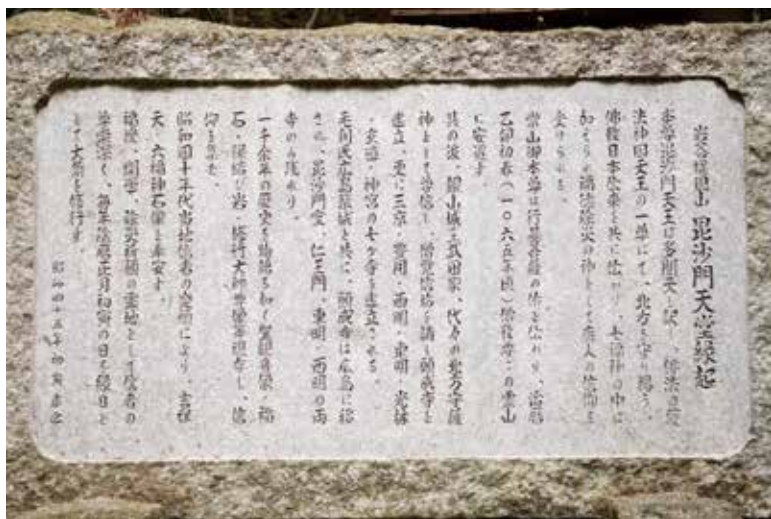
特定の公益目的のために農林水産大臣または都道府県知事によって指定される森林のことで、権現山の山頂付近一帯は大正 3 (1914) 年から広島県の土砂流出防備保安林に指定されています。樹木などの働きで下流への土砂の流出を防ぐのが目的です。森林法に基づき、樹木の伐採（切り倒し）には広島県知事への許可申請や届出が必要です。



* 2 公益：広く社会一般の利益

名前の由来は？

権現とは、仏・菩薩が衆生（生きるものすべて）を救うため、権に神・人などの身になって、この世に現れることをいい、山の神のことを権現と称してきました。古来人々は、霊山や聖地の山を仏菩薩や神霊の棲み処として畏敬の念をもって接し、「権現」という名が付く山は、近隣の住民から尊崇の対象とされてきました。



毘沙門天宮縁起（建てられた由来）が記された石碑

銀山城の鬼門とは？

銀山城とは安芸国守護・武田氏の居城で、元徳元（1329）年に安芸武田5代目信宗によって、現在の安佐南区祇園の武田山に築られました。日本では古来より北東の方角を鬼門といい、鬼が出入りする方角と恐れられていました。銀山城から見て権現山がちょうど鬼門にあたるため、武田氏が崇拝していた毘沙門天を権現山に祀り守護を祈りました。



左、武田山

野山って何？

「野山」とは江戸時代以降に決められた、村や個人で管理できる山のことです。村人が草木を自由に採取して家畜の餌や田畑の肥料に活用できました。権現山も野山として、緑井村で共同で管理していました。裾野から中腹までは「腰林」といって個人別に区分けして管理し、家ごとに山菜採りなどに活用しました。昭和の中頃まで使われていた段々畑の石垣跡なども残っています。藩が管理する山は「御登山」といい、無断で入山することも枝一本持ち帰ることも厳しく禁じられていました。



中世には防衛戦略上の拠点だった？

権現山の付近は中世の頃、防衛戦略上の重要な地点だった可能性があります。現在、園地広場のある場所がかつて「中ノ城」という城跡があったとされ、ふもとの古川左岸には太田川の水軍（川の内警固衆）の一つ、福井氏の屋敷跡がありました。山頂からは太田川とその支流の安川と古川が合流して広島湾へと注ぐのがよく見え、はるか瀬戸内海の小さな島々までが見渡せます。南以外の三方には権現山よりも標高の高い山々が防御壁のように連なる有利な場所のため、広島城下町と太田川や瀬戸内海の水軍の動きを監視できたことでしょう。



広島湾を遠く眺められる

* 3 防御壁：敵の攻撃などを防ぎ守る壁

灯ろうって何のためにあったの？

明治から大正にかけて、太田川では舟や筏を使って物資の輸送をしていました。上流域で生産された木材は筏に組んで、広島デルタ地域（太田川三角州）に運ばれました。木材を運び終えた筏師たちは、櫂（船を漕ぐための道具）を担いで旧道を歩いて戻りました。その道しるべとして旧道に沿って置かれた石灯籠を、今も毘沙門天の参道などで見ることができます。

